

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「本物のスポーツマンは日本にいないでしょうか？」

スポーツ大会でよく見かける「選手宣誓」を聞きながら、こんな疑問を抱くことがあります。

「我々は、スポーツマンシップに則って、正々堂々と戦うことを誓います！」

皆さんはこんな選手宣誓を聞いたことがあるはずですが、あらためて質問します。「スポーツマンシップに則る」とは、どういう意味なのでしょうか？ こう問われてドキッとしませんか？

即答できる人は、ほとんどいないでしょう。考えてみてください。これは知らなくていいことなのでしょうか？

スポーツをするうえで必要な「基本中の基本」ですから、知らないでいいはずがありません。それに、「則った」と判断する場合の基準、あるいは逆に「則らない」と判定する場合の基準が不明では、「則ったかどうか」も当然不明ですから、宣誓自体には全く意味がなくなるようになります。そんな宣誓をこれからもし続けるのでしょうか？

スポーツマンシップとは何のことか、それを理解するためには、第一に①「スポーツとは何か」を理解しておかなければなりません。「そんなこと知ってる」って？ 本当ですか？ では、問題。「あなたの好きなスポーツの絵を描いてください」。持ち時間は一分です。

どんな絵を描きましたか？ おそらく、プレーしているプレイヤーや、競技に関係する道具（ボールやスパイクやゴールなど）を描いたのではありませんか？ それらは、「プレイヤー

の絵」であり、「道具の絵」ですが、「スポーツの絵」ではありません。正解は「スポーツは絵に描けない」です。A「写真にも撮れない」です。なぜならスポーツとは「ルール」のことなのですから。

よくわからない？ それは困りましたね。では、まず「ルール」について考えましょう。

「ルール」はなぜあるのでしょうか？

スポーツを理解するために最初に確認しておきますが、「スポーツは人間が楽しむためのもの」です。これが出発点です。決して「世の中に無ければならないモノ」でもなければ、生きるためにどうしても「必要なモノ」でもありませんが、楽しむためのモノであり、その「スポーツで楽しむ」ために「ルール」があるのです。

そして、ルールのもとで勝敗を競いますが、このことが楽しくないのであれば、スポーツをする価値はありません。他のことをやった方がずっとマシです。B、スポーツは「プレー」（遊び）だからです。遊びである以上、好きにならなければいけないモノではありません。好きでないなら、しなければいいのです。②決して無理をする必要はありません。

スポーツへの参加は強制されるのではなく、自由意思によるものでなければ、「遊び」になりません。皆さんは親から「パソコンでゲームをしなさい」と言われたことは無いでしょう。それはゲームだからです。ゲームは「遊び」だから、強制されたら「遊び」にならないのです。

（中略）

ゲームを楽しむためにある③「ルール」が果たす機能は、三つに分けることが可能です。

一つは「空間・時間・人数・形式」などの物理的な条件に関する「公平さ」と「共通化」です。全員がスポーツについて共

通の理解をしておかなければ、一緒に楽しく遊ばせんから。第二に「暴力を抑制すること」です。暴力的では楽しく遊ばせんからね。

以上の二つに収まらない項目を集めて、「その他」という三番目のグループを作ると、このグループが妙なものの集まりであることに気付きます。ここに収まっている各条項は、何のためにあるのだろうか、と分析すると、何と（！）得点や勝利することを「難しくする」ためにあることが分かります。そして、どうもこの「やりにくい条件」を作り出すことがルールの重要な機能なのです。

サッカーはなぜ手が使えないのでしょうか？ラグビーはなぜボールを前に投げてはいけないのでしょうか？バスケクトは、なぜダブルドリブルを禁じているのでしょうか？そこには、理由らしい理由などありません。これらは、単に「得点するのを面倒くさくする」以外に存在する理由はないのです。なぜでしょうか？実は、答えは意外に簡単。最初に確認したように、ルールは「楽しんでプレー」するためのものだから、「面倒にすることが、楽しむために必要」だからなのです。これがスポーツの基本的な考え方です。ちよつと④不思議な感じがするでしょう。

「ボールを前に投げることはOK」にしてしまうとラグビーは楽しくない、と思った人たちが集まって、それを「反則」にする都合したのです。※オフサイドがなければ、サッカーの魅力は半減すると思っただ人たちが、同じくそれを「禁止」として合意したのです。これらのルールに記された具体的な条項には、「何がおもしろいのか」を判断したうえで、競技の参加者によって検討した結果、皆で合意したという歴史的な背景があるのです。そこを理解しておくことは、スポーツを理解するう

えで最も重要なポイントです。

何しろ、⑤こういった背景はルールの中に文章として書かれていませんで、それ自体はルールではありません。C、プレーする人は事前に理解しておく必要があります。書かれていないけれど、前提になっていること、それが「原則」というものです。

D、商売をする人が契約をする場合、契約する当事者どうしには、そもそも「契約は守るもの」という原則が事前に了解されていなければ契約をしても意味がありません。「嘘をつく」なんてことは法律には書いてありませんが、いけないことだということは皆が知っています。こんなことは大人に言うべきことではなく、子どもの時に「しつけて」おくべきです。同様に、「ルールは守る」という原則のうえに、「ルール」は成立しているのです。原則というのは、簡単に言えば、いちいち言う必要がない「当たり前のこと」なのです。

例えば、「勝つために努力せよ」とはルールに書かれていませんが、勝とうと努力しないのであれば、スポーツは無意味です。「勝とうと思わない相手」と対戦したら、全然おもしろくないはず。勝つために努力するのは、事前に合意された「原則」なのです。

整理すると、スポーツをプレーする人は、（ルールに書かれているように）「暴力を振るわないで、わざわざ面倒なことを守らなければならない」ことを事前に了解したうえでプレーをすることが前提になっているのです。

実際にプレーすると分かるでしょうが、この書かれていない「原則」を守るということは、簡単なようで実は難しい。相당한覚悟が必要です。おそらく、「勝とうと努力することより、数倍の覚悟が必要だと思えます。なにしろ勝つために一所懸命

プレーしていると、カッとすることが頻繁ひんぱんにあるはずで、熱中すればそんなことは、むしろ当たり前です。この「当たり前」のことをしないためには、それなりの覚悟がいるはずで、だから、逆に、それができる人は尊敬あたいに値あたします。⑥ スポーツマンが尊敬されるのは、そういう理由があるからです。これは、放っておいたらできません。サッカーで相手選手のユニフォームを掴つかんだほうが、※ディフェンスはしやすいでしょう。でも、やっつはいけません。ラグビーなら「ボールを前に投げない覚悟」がどうしても必要なのです。

スポーツをする以上、「ルール」に書いてある具体的な条項を守ることは当然ですが、それだけではスポーツマンと名乗ることはできません。「ルール」がなぜ必要かという原則を理解して、その原則を守る覚悟を持たないならば、本当はスポーツをしてはいけません。してもいいけど、それはあまり意味がありません。ルールは楽しむためにあるのですから、ルールを守って楽しくないならスポーツをやめる意味はありません。スポーツに参加するかどうかは、あくまで当人の自由意思ですが、参加して楽しむとするなら、それなりの覚悟が必要だということなのです。

こうした原則を守る覚悟のことを⑦ スポーツマンシップと呼びます。この視点に立って選手宣誓を言い換かえますと、「我々は、スポーツの本質を理解し、そのうえでスポーツを楽しむために、スポーツの原則を守る覚悟を持ち、ルールに従って、正々堂々と戦うことを誓います」となります。これが正解。

（ 広瀬一郎 『スポーツマンシップとは？』 一部改変 ）

※（文中のことばの意味）

ダブルドリブル …… バスケトボールの反則の一つ。

オフサイド …… サッカー、ラグビーの反則の一つ。

ディフェンス …… スポーツ競技での守備。守備側の選手。

問1 A } D にあてはまることばとして、最もふさわ

しいものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 例えば
- イ しかし
- ウ もちろん
- エ なぜなら

問2 線① 『「スポーツとは何か」を理解しておかなければなりません』とありますが、このことを考える上での

前提はどのようなものですか。それを説明した次の文の□にあてはまることばを、文中から十一字でぬき出しなさい。句読点なども字数に数えます。

スポーツは□という考え。

問3 線② 「決して無理をする必要はありません」とあ

りますが、「無理をする必要」がないのはなぜですか。その理由を文中のことばを使って三十字程度で答えなさい。句読点なども字数に数えます。

問4 ———線③ 「『ルール』が果たす機能」のたとえとして  
ふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えな  
さい。

- ア 競技に必要な道具を身につけて試合を行う。
- イ サッカーは決められた時間内で決着をつける。
- ウ 相手のミスを誘うようなテクニクがいる。
- エ 卓球選手は卓球台に手をつけずにプレーする。

問5 ———線④ 「不思議な感じがする」とありますが、どの  
ようなところが「不思議」のですか。その内容として、  
最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えな  
さい。

- ア スポーツを楽しむためには、やりにくさや面倒くささが  
必要だということ。
- イ スポーツを楽しむためにルールを難しくするのは、意外  
と簡単だということ。
- ウ スポーツを楽しむためのルールとして、三つの項目があ  
るというところ。
- エ スポーツを楽しむためにつまらないルールが存在するが、  
特別な理由はないということ。

問6 ———線⑤ 「こういった背景」の説明として、最もふさ  
わしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 反則や禁止事項は、競技の参加者の中で技術的に優秀な  
人物の意見が尊重されたという背景。
- イ 反則や禁止事項を守らなかった者は、プレーすることさ  
え許されなかったという背景。
- ウ 反則や禁止事項は、競技する人たちによって必要性が話  
し合われて決定したという背景。
- エ 反則や禁止事項を守る人は、競技の魅力を十分に理解し  
ていたという背景。

問7 ———線⑥ 「スポーツマンが尊敬される」のはなぜです  
か。その理由として、最もふさわしいものを次の中から一  
つ選び、記号で答えなさい。

- ア 苦しい練習や、つらい試練などにも耐えられる強い気持  
ちがあるから。
- イ プレー中に頭にくることがあっても、熱くならず我慢  
することができるから。
- ウ 大きな記録を残すと歴史に名前を残すことができ、誰に  
でもできるようなことではないから。
- エ ルールを守るという当たり前のことを、子どもの時から  
しつけられているから。

問8 線⑦「スポーツマンシップ」について説明した次の文章の I・II にあてはまることばを、文中から指定された字数でそれぞれぬき出しなさい。

スポーツをするためには、「暴力を振るわない」「面倒なことを守る」などの「ルール」に I (五字) 条項を守るだけでなく、「ルール」がなぜ必要かという II (七字) 「原則」を守る覚悟のこと。

問9 線「スポーツマンシップに則<sup>のつと</sup>って」の言いかえとなるのははじめと終わりの七字をぬき出しなさい。

問10 本文の内容に合うものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア スポーツをする上で必要なルールを理解するには時間がかかるが、結果的に楽しむことができる。
- イ スポーツをする時はルールの中でプレーしなければならぬが、必要があればそれを変更することもできる。
- ウ スポーツには勝つために努力する覚悟が必要で、簡単にあきらめない強さを身につけることができる。
- エ スポーツにはルールが必要であり、難しくすることによって楽しさを味わうことができる。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「かっこいい先輩を見つけたから」と、B組の彩菜はバスケット部を選んだ。

「うちのママ、ママさんバレーで全国大会まで行ってるんだ」と、レイミーは遺伝子に賭けてバレー部へ仮入部した。

① 千鶴は次第にあせってきた。いっそ自分もバスケット部かバレー部に、とも思っていたけれど、友達の真似ではいかにも情けない。それに、彩菜もレイミーもすでに部活のみんなと結束をかためているようで、そこにはもう自分の入る余地などなさそうなのがする。

陸上部は練習がきびしそう。水泳部は水着がはずかしい。考えるほどに、千鶴は自分にびたっとくる部活なんてどこにもない気がしてきた。運動自体、もともとあまり得意ではないのだ。

それでも千鶴が体育系の部活にこだわったのは、「I」の一心からだ。ここで文化系の部活を選んでしまったら、この先もずっと、自分はこれまでとおなじレールの上を走りつづけることになる。

新しいわたし。今までとはちがうわたし。部活は、そんな自分に生まれ変わる最大のチャンスなのだ。

そう思いながらも、足を踏み出す方向が定まらずにいたある日の放課後、吹奏楽部の見学につきあってほしいと、千鶴はしほりに頼まれた。

「ひとりじゃ行きづらくて。お願い」「もちろん」

北見二中の音楽室は、本校舎から離れた別棟の北校舎にある。渡り廊下の窓ごしに中庭を見おろしながら足を運ぶと、本校舎の※喧噪や床の震動が次第に遠のいて、しんとした静けさに包まれていく。

音楽室の戸を開けた瞬間、その静寂を揺さぶる音がした。足もとから這いあがってくる低音。それがクラリネットの音色であることに、千鶴は室内を見まわしてから気がついた。

クラリネットだけじゃない。机を前方に積みあげてスペースを空けた室内には、想像以上に多くの部員がいた。トランペット。フルート。打楽器。それぞれのパートごとに練習している。教室のあちこちから響く多彩な音。その音と音とが絡みあい、もつれあい、不協和ながらも重層的な音のかたまりを生んでいく。

「見学？」

教室の隅で新入部員の指導をしていた顧問の先生が、千鶴としほりに気がついた。

ベートーヴェンみたいな髪の毛の男の先生。でも、顔はあそこまですばかでない。

「あ、はい」

「よろしくお願いします」

②あわてて頭をさげたふたりに、「入っておいで」と手招きする。ふたりが足を踏みいれるなり、先生はぱんと両手を打って部員たち呼びかけた。

「一年生が来たから、ちよつと聴かしてやって」

たちまち、パートごとの小さなかたまりがほぐれ、教室の中心に全員が集合した。先生の指揮棒にたぐられて、その大きなかたまりから蒸気のようにメロディが立ちのぼる。最初はふんわりと。ひとつ、またひとつと音が増え、メロディが膨らむ。膨らむ。膨らむ。ひとりひとりの奏でる楽器が、重なることでその音色を深め、引きたて、美しいハーモニーを育てていく。砂浜の波が引いたあとで足もとの砂がすつと動くみたいに、千鶴の心は音のほうへと引きよせられた。曲が終わったときにはすつかり感動していた。

なんの曲かもわからない。上手な感想だつてひと言も言えなかったけれど、ベートーヴェン先生は「またおいで」と笑ってくれた。

「なんか、すごかったよね」

「うん。すごいよね、吹奏楽部。っていうか、中学生ってすごい！」

「ほんと、レベル高かった。小学校の鼓笛隊なんて目じやないね」

「目じやない、目じやない」

「うちらも練習したらあんなふうになれるのかな」  
帰り道、※野球部のときとは打ってかわって、③ふたりのテ

ンションは高かった。千鶴の感動がしほりに、しほりの興奮が千鶴に乗りうつり、ふたりして無制限に高まっていくみたいに。

「決めた。あたし、吹奏楽部に入る。千鶴も一緒にやろうよ」

しほりに誘われるまでもなく、千鶴の気持ちも吹奏楽部へ傾いていた。

放課後の音楽室にいる自分を、千鶴はたやすく想像できた。すぐに上達するほど器用じゃなくても、まじめに練習を積んで、着実に成長していく自分。仲間や先輩たちともそれなりにうまくやっていく。ありありとイメージできる。できすぎる。

「あのね、わたし……中学生になったら、変わりたいって思ってたんだ」

千鶴は初めてしほりに打ちあけた。

「今までとはちがう自分になりたくて。吹奏楽部は、すごくいいと思うし、すごくやってみたい。④でも、それじゃ、今までわたしと一緒に気もして……」  
うまく言えない。⑤じれったく黙りこむ千鶴の横顔を、しほ

りんがじつと見つめている。千鶴が本気するとき、しほりんはいつもおなじくらの本気で何かを返そうとしてくれる。ちようどいい言葉が見つからなくても、見つけたすまであきらめない。

けれど、この日は早かった。

「うん」

胸もとのスカーフをのぞきこむように、しほりんはこつくりうなずいて言ったのだ。

「わかるよ。千鶴の気持ち」

「え」

「あたしも、そんなふうと思うことあるし」

「しほりんも？」

「うん。でも、それでもあたし、千鶴は千鶴らしいことをしたほうがいいと思う」

「そうかな」

「わざと自分らしくないことをするより、千鶴は千鶴らしいことをして、今までの千鶴以上にそれをがんばって、その先に、今までどちがう千鶴がいるんじゃないのかな」

千鶴は千鶴らしいことをして、今まで以上にそれをがんばって、その先に、今までどちがう千鶴がいる――。

千鶴はその言葉を吸いこんだ。とたん、⑤道のむこうに広がる夕焼け空が朝焼けみたいに光り方を変えた。

「うん。そうかも。そうならいいな」

すうっと肩から力がぬけた。

「ありがとう、しほりん。わたし、決めた。明日、仮入部届けもって、ヴェンに会いに行くよ」

「あたしもヴェンに会いに行く」

「わたしのヴェンに？」

「あたしのヴェンだよ」

顔を見合わせたふたりの笑いがはじける。勢いあまつて千鶴が駆けだすと、しほりんが「待てーっ」と追ってきた。だいぶ足になじんできた通学路に響く、※スタツカートの足音。

ふたりのスカートをなびかす風は、いつしか五月の山吹色に香っていた。

（森絵都 『クラスメイツ』 一部改変）

※（文中のことばの意味）

喧噪　：　そうぞうしくて、うるさいこと。

野球部のとき　：　千鶴としほりんが以前、野球部の見学に行ったことを指す。

スタツカート　：　音楽で音を短くきって演奏すること。

問 1

~~~~~線①②③のことばについて、文中における意味として最もふさわしいものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 目じやない

- ア 真剣しんけんではない
- イ 問題もんだいではない
- ウ 簡単かんぱんではない
- エ 優秀ゆうしゅうではない

② たやすく

- ア 容易りょういに
- イ 詳細しんじゆに
- ウ 鮮明せんめいに
- エ 大胆だいたんに

③ じれったく

- ア わずらわしく
- イ むずかしく
- ウ もどかしく
- エ おかしく

問 2

——線①「千鶴ちづるは次第しだいにあせってきた」とありますが、千鶴はどのようなことについてあせっているのですか。二十字以内で答えなさい。句読点なども字数に数えます。

問 3

□ I にあてはまることばを、文中から五字でぬき出しなさい。

問 4

——線②「あわてて頭をさげたふたり」とありますが、この時のふたりについて説明したものととして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア あまりにたくさんおほくの部員ぶいんがいるので、自分たちはこの中に入れないのではないかと、不安ふあんになっている。
- イ 音楽室おんがくしつに入った瞬間しゅんかん、響き渡る大きな音おとのかたまりに恐怖こふを感じ、冷静れいじやうさを失っている。
- ウ 音楽室おんがくしつに入って最初に声をかけてくれた先生せんせいが、風変わりかきりな見た目みだったので、笑わらいを隠かくしきれないでいる。
- エ 思おもっていた以上に多くの部員ぶいんが様々な楽器がくきを演奏えんそうしている。多彩たさいな音が響く空間くわんかんに、落ち着おちちやくかず緊張きんちやうしている。

問5 本文中にえがかれている、吹奏楽部の「顧問の先生」と「部員たち」の様子を説明したものととして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 指揮者である先生が指示を出し、部員たちは即座そくざに反応して、自らの役割をそれぞれに果たしており、先生を中心に集団として統制がとれている様子。

イ 部員たちは指揮者である先生からの指示を絶対的なものだと考えて行動しており、その指示についていくために必死めいじになっている様子。

ウ 指揮者である先生の指示や指導は部員たちによく行き届いているが、パート間の連携れんけいはあまりとれておらず、全体的にまとまりに欠ける様子。

エ 指揮者である先生はそれほど積極的に指導しているわけではないが、部員たちがパートごとに自立して熱心に練習しているため、団結している様子。

問6 線③「ふたりのテンションは高かった」とありますが、なぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 千鶴もしほりんも、吹奏楽部の演奏にすっかり心を奪われ、ようやく入部してみたいと思う部活に出会えたことがうれしかったから。

イ 千鶴もしほりんも、吹奏楽部の活気ある様子に魅力みりょくを感じると同時に、中学生のレベルの高さにも驚きおどろ、自分たちからは遠い世界だと感じたから。

ウ 千鶴もしほりんも、吹奏楽部に歓迎かんげいされたことがうれしく、早く練習に参加して先輩たちのように上手くなろうと、目標が明確になったから。

エ 千鶴もしほりんも、吹奏楽部のハイレベルな演奏に感動し、自分たちもここで先輩たちようになってみたいという、あこがれを共有できたから。

問7 線④「でも、それじゃ、今までのわたしと一緒に気もして……」とは、どういうことですか。それを説明した次の文の1・2にあてはまることばを、文中のことばを使って、指定の字数でそれぞれ答えなさい。句読点なども字数に数えます。

|            |
|------------|
| 1 (二十字以内)  |
| 2 (二十五字以内) |

しまつたら、  
ということ。

問8

——線⑤「道のむこうに広がる夕焼け空が朝焼けみたいに光り方を変えた」とは、どういうことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 千鶴はしほりんの言葉を聞いて、今までとはちがう生活が始まることへの不安がなくなり、安心して前に進んでいけるようになったということ。

イ 千鶴はしほりんの言葉で、無理をして変わろうとするよりも、自分らしく成長していく未来に魅力を感じるようになったということ。

ウ 千鶴はしほりんの言葉によって、自分のやりたくないことをするのではなく、やりたいことに懸命に取り組めばよいのだと明るい展望が開けたということ。

エ 千鶴はしほりんの言葉を受けて、新しいことに挑戦する必要はないことに気づき、今までと変わらない生活を送る覚悟ができたということ。

問9

この文章の表現について説明したものとして、ふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 千鶴としほりんが音楽室に入る場面では、音楽室に向かうまでの静けさと、音楽室に入った瞬間に響く音を対比的にえがいている。

イ 部員たちが集合して千鶴としほりんのために演奏する場面では、奏でるメロディを蒸気にたとえ、それに関する表現を重ねている。

ウ 千鶴としほりんが入部を決意した場面では、ふたりは吹奏楽部の先生を「ヴェン」と呼び合い、先生とすっかり親しくなったことを暗示している。

エ 千鶴としほりんが入部を決意して駆けだす場面では、「スタカート」の足音」という表現で、ふたりの気分が軽くなっていることを想像させる。

③ 体の部分の名称めいしきょうを使った慣用句と下の熟語の意味が同じになるように、例にならって□にあてはまる漢字一字を答えなさい。

(例) □が回る || 雄弁 ゆうべん      答え…舌

- ① □をかしげる || 疑問
- ② □を加える || 修正
- ③ □を決める || 覚悟 かくご
- ④ 頭が下がる || □心
- ⑤ 足が出る || □字

④ 次の——線のカタカナは漢字に直し、漢字は読みを答えなさい。

- ① ライトでテ<sup>レ</sup>らす。
- ② あわてていたので、ワ<sup>ス</sup>れものをした。
- ③ 進入禁止の道路ヒョウシ<sup>キ</sup>。
- ④ 先生はやさしいク<sup>チ</sup>ョウで話した。
- ⑤ 雑誌のヘンシ<sup>ユ</sup>ウをする。
- ⑥ 便利<sup>ニ</sup>な商品を開発する。
- ⑦ 努力を高く評<sup>バ</sup>うする。
- ⑧ 海には豊<sup>フ</sup>富は資源がある。
- ⑨ 小包を郵<sup>ウ</sup>送した。
- ⑩ 桜の名所を訪<sup>ア</sup>ねる。

これで問題は終わりです。